



## 作者について



山口素堂（一六四二—一七二六）

山口素堂は、江戸時代の俳人です。甲斐国（今の山梨県）で生まれました。

江戸や京都、中国の学問や和歌、書道などを学びました。

松尾芭蕉とは、親しく交流していました。

## 他の作品



「枇杷黄なり空はあやめの花曇り」

## 作者について



小林 一茶 (一七六三—一八二七)

小林一茶は、江戸時代の俳人です。信濃国（今の長野県）で生まれました。

十五さいのころ、江戸で働きながら俳句を学び、三十さいのころには、六年かけて四国や九州を旅し、俳句の修行をしています。その後、故郷に帰りますが、子どもや妻を病気でなくすなどつらいできごとが続きました。生涯に二万句もの俳句をよんでいます。

## 他の作品



「我と来て遊べや親のない雀」など、子どもや小さい動物などへのやさしい気持ちのこめられた句をよんでいます。

## 作者について



おおとものやかもち  
大伴家持(七一八?―七八五)

大伴家持は、奈良時代の歌人です。日本で最も古い歌集である『万葉集』を中心的にまとめた人物です。『万葉集』には家持の歌が最も多く、四七〇首あまりのせられています。三十六歌仙(藤原公任という歌人が選んだ、すぐれた三十六人の歌人)の一人です。

## 他の作品



「かささぎの渡せる橋におく霜の白きを見れば夜ぞ  
ふけにける」

## 作者について



野口雨情のぐち うじょう (一八八二—一九四五)

野口雨情さんは、大正時代から昭和時代の詩人、作詞家です。茨城県いばらきで生まれました。

日本各地の特色を取り入れた民謡ようや童謡を数多く発表しました。北原白秋きたはらはくしゅう、西条八十さいじやうやそとならぶ「日本三大童謡詩人」の一人です。

## 他の作品



「十五夜お月さん」、「赤い靴くつ」、「青い眼めの人形」、「シャボン玉」、「證城寺しょうじょうじの狸たぬき子ばやし」など、そぼくであたたかい歌をたくさん作りました。今も多くの人に愛され、歌いつがれています。

